悠々球論

権藤博

自粛期間 自立の機会に

新型コロナウイルスの影響で、プロ野球も自宅待機や自主練習とする球団が増えてきた。ブランクの影響は計り知れないが、せめてこれを選手の自立の機会にしたい。

1月の新人合同自主トレに始まり、11月の秋季キャンプまで選手は事実上、球団の指揮に従っている。2月の半ばからキャンプを始め、ポストシーズンを含めても10月までにほぼ終了して解散、というメジャーとは大違いだ。

日本の球団は面倒見がいいともいえるし、過保護ともいえる。サラリーマン的な選手が多いのはそのせいではないか。

選手をもっと自由にさせよう。球団は2月から11月までの10カ月を対象に、選手に給料を払っている。これを3月から10月までの8カ月とする。選手は自由な時間が増えた分、自分だけの練習ができる。もちろん、球団の施設は使えるようにしないといけないが、自分で工夫して動くことで、オレはオレ、というプロ根性が養われる。

ついでに球団の経営も見直したい。春、秋のキャンプは球団の大きな出費の要因。ここを削れば経費も削減できる。プロ野球という業界がいかにもろいか、と実感する昨今。この先も何が起こるかわからない。経営体質を強化するに越したことはない。

そんなに選手任せで大丈夫か？ 球団も心配だろうし、選手自身も不安かもしれない。開幕までのブランクをどう過ごしたらいいのか。

その点、球界にはいいお手本がいる。菅野智之（巨人）だ。プロ入りの際、ドラフトで入団を断り、1年間の浪人期間があった。組織に属さず、自分で自分を管理し、鍛える、のは難行だ。

その難行を彼はやってのけた。選手として致命傷になりかねない1年のブランクを乗り越えた。

とにかく真面目だ。年末年始を過ごすハワイでたまに会うと、菅野はいつも黙々と自主トレに励んでいる。休息と決めた日はゴルフもしない。プロ意識の塊だからできる自己管理だろう。目標を定めにくい日々のなかで、選手個々の意識が試されることになる。

（野球評論家）

宮川選手が富士通加入

日大アメフト悪質反則

アメリカンフットボール日本社会人Xリーグの富士通は1日、悪質反則問題の当事者だった日大出の宮川泰介選手が新加入したと発表した。

2018年5月に日大と関学大の定期戦で問題が発生。一時は競技を離れた宮川選手は不起訴となった昨年11月に関東大学1部下位リーグで実戦に復帰し、日大の上位リーグ昇格に貢献した。

富士通は今年の日本選手権、ライスボウルで4連覇を達成した強豪。